

テーマ 戦後80年を迎えて考えたこと

題名 戦争のない未来のために

鹿沼市立南押原中学校 (氏名) 武田 桜太朗



僕は、戦後80周年を向かえるこの年に初めて

広島の平和記念式典に参加した。そこでは、今まで自分の聞いたことのある抽象的なイメージではなく、あの日、広島市で起こったことが頭の中で具体的に思い起こされた。現地の中学生と交流し、意見を交換し、いろいろな考えを発見することができた。その中で、僕は考えた。戦争のことを忘れず、未来へ受け継いでいくこうというような言葉を聞くことがある。しかし、本当にそうなのだろうか。今を生きる現代人のほとんどは戦争を経験したことがない世代だ。それなのに忘れないようにという表現はすこし違う気がする。ならば、我々には未来のために何ができるのだろうか。僕は戦争について知ろうとすることだと思う。まずは、戦争のことについて学ぶことが、未来に戦争のことを伝える第一歩ではないだろうか。そういう意味でも、今年の夏、実際に自分の目で広島で起こったことを知ることができたのは、大きな経験だったと思う。僕たちは、普段8月6日や8月9日、8月15日に黙祷をしている。ニュースなどでも、その時期になると、戦争の話題で持ちきりになる。果たして、その時だけ戦争のことを思い出すのはどうなのだろうと考えた。何も、戦争をしていたのはその短い期間だけではない。日本が戦争を始めた真珠湾攻撃は12月8日だ。そう、365日戦争はずっと起きていたのだ。毎日、世界中で人々は亡くなっていたのだ。その犠牲の上に僕達は生きているのを忘れてはいけないのだと思う。それこそが、我々の使命の一つであると思う。

戦後80年、戦争についてもう一度よく考えてみる良い機会だと思う。年に一度戦争があったことを思い出すのではなく、戦争について考えて学ぶことこそが僕達若い世代のすべきことだと思う。もう二度と日本が争いに巻き込まれない未来を作っていくたい。